

IPのチカラで地域の魅力を掘り起こす 「フットパス」実践報告

村井 孝一 (公財) キープ協会 環境教育事業部

キーワード：歴史、文化、地域活性化、観光

1. はじめに

(公財) キープ協会・環境教育事業部の村井と申します。この度は「フットパス」の実践報告を通して、IPのチカラによって地域の魅力を掘り起こす可能性についてお話させていただきます。

今回のこの事業は、観光庁・誘客多角化実証調査事業の一環として、2020年度の冬に計4回開催されました。概要は以下の通りです。

<開催概要>

- ・日程：12/7、12/8、1/19、1/20 (計4回)
- ・時間：10:00～15:00 (各回共通)
- ・場所：北杜市白州町 (甲州街道 台ヶ原宿)
- ・参加者数：計40名 (各回定員10名)
→12/7：11名、12/8：10名、1/19：10名、1/20：9名
- ・参加費：無料 (昼食代は各自)
- ・スタッフ：各回5名
(キープ協会3名、地元アドバイザー2名)

2. フットパスとは

「フットパス」とは、イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径(こみち)【Path】のこと (参考1)です。

3. 今回大切にしたこと

フットパスの元々の定義としては上記の通りですが、今回フットパスを行事として行う上で、「楽しむ」をベースとしながら、「歩くことで地域を元気にする」を大切な要素として実践致しました。

神社にお賽銭をあげて秘密の願いをしたり、お店で駄菓子を買って歩いたり、畑で農作業をしている人に声を掛けたり。歩くことで風景や人々の暮らしが見え、自然と会話や笑顔が増えてゆきます。また、地域の歴史や文化、隠れた魅力を掘り起こしてゆくことで、参加者の皆様にPRできるだけでなく、地元の方々御自身もこの地域が持つポテンシャルに気づくことができ、より愛着を持つことができます。

コロナ禍の有無にかかわらず、地域活性化は大切なキーワード。地域に負荷をもたらすイベントではなく、「地域を元気にする」ことを大切に、そのためにIPがどのように関わったかをご紹介します。

4. 当日お話しすること (予定)

- ・環境教育的フットパスとは？
- ・フットパスにおけるインタープリテーションの手法
- ・フットパスが果たせること

など、いわゆる「街歩き」におけるインタープリテーションの手法や注意点、押さえるべきポイントなどを中心にお伝えいたします。(KP法・パワーポイント等使用予定)

5. 互換性の高そうな分野 (自然ガイド以外)

- ・歴史、文化のガイド
- ・地域活性化に関わる分野
- ・観光案内のガイド など

6. 甲州街道 台ヶ原宿について

今回のフットパスで紹介した街は、「甲州街道 台ヶ原宿」。江戸時代に栄えた中山道の宿場町の一つで、今もなお古い民家等が残る歴史ある街。「日本の道100選」にも選ばれている。酒造メーカーの「七賢」や、生信玄餅で有名な和菓子屋「金精軒」等も並ぶ。

参考

- 1) 日本フットパス協会HP <https://www.japan-footpath.jp/>



【写真 みそなめ地蔵】

お地蔵さんの身体に味噌を塗ると、その部分を治してくれるありがたいお地蔵様。腰痛を抱えていた私も、味噌を塗った直後に痛みが軽くなりました…！！